

影響力ある論文 日本人17人選ぶ

トムソンサイエン ティフィック

学術文献情報サービス
のトムソンサイエンティ
フィックは科学技術の最
先端領域で影響力の大き
な学術論文を発表してい
る日本人を十分野で十七
人選び発表した。

論文の引用頻度などの
分析から研究が活発な
「リサーチフロント」と
呼ぶ研究領域を割り出
し、その領域で影響力が
大きく高い頻度で引用さ
れる論文を発表し続ける
日本人研究者を探しだし
た。同社が選定をしたの
は二〇〇四年に次いで二
回目。自然免疫の研究で
ノーベル賞候補ともされ

る大阪大学の審良静男教
授の論文引用は〇一〇
七年にかけて被引用回数
が三千回を超え非常に注
目度が高いという。

影響力の大きな論文を
発表した研究者とその研
究領域は以下の通り。

▽岡本佳男・名古屋大学
エコトピア科学研究所客員
教授、八島栄次・名古屋大
学大学院教授(機能性らせ
ん高分子の発見、設計と合
成)▽審良静男・大阪大学
微生物病研究所教授(自然
免疫によるウイルス認識か
らインターフェロン産生に
いたる経路の解明)▽及川
勝成・東北大学大学院准教
授(新規磁性形状記憶合金
の開発)

室温強磁性の発見)▽中嶋
直敏・九州大学大学院教授
(カーボンナノチューブ可
溶化・機能化デザインへの
戦略的なアプローチ)▽岡
本健一・山口大学大学院教
授、喜多英敏・同大学教授、
田中一宏・同准教授(燃料
電池用のスルホン化ポリイ
ミド系電解質膜の開発)

▽白土博樹・北海道大学
大学院教授(臓器の動きに
関する精度を高めた四次元
放射線医療)▽広瀬敬・東
京工業大学大学院教授、村
上元彦・岡山大学地球物質
科学研究センター助教(ポ
ストペロプスカイト相転移
の発見と地球の最下部マン
トルの研究)▽東正樹・京
都大学化学研究所准教授、
島川祐一・同教授、高野幹
夫・同特任教授(ピスマス
ペロプスカイトにおける強
磁性強誘電体の探索)▽竹
本佳司・京都大学大学院教
授(多機能チオウレア触媒
の設計と触媒的不斉付加反
応への応用)